



勝林寺寺報

眼はみずからを見す

わたしの眼はソフトコンタクトレンズで補つてもらって辛うじて見えているそんな眼であります。ですから何かの拍子にこのコンタクトレンズが無くなってしまったら、それこそ全くの盲目であります。コンタクトは、私にとってはだから、命の次ぎにだいじなものなのです。ところが、平生はそんな大切なコンタクトを意識してはいない。なにかの事故で突然コンタクトが外れ落ちて盲目状態に陥ったとき、はじめてハットその有り難さ大きさを教えられるのです。

ついこの間、そんな突然の事故に会いました。幸いにも眼科の先生と先端医療機器にたすけられ、二日と待たずに新しいコンタクトレンズを入れ替えていただきましたが、そのときにふとおもいだした言葉があります。

「眼はみずからを見す」

見えているつもり、知っているつもりで「わがみありがお」の態でくらしているわたしへの厳しい警告の言葉であると思いました。

す。

そしてまた、そんなわたしの思いを、またハット目覚めさせてくれた歌があります。折に触れて唱えていたるご和讃です。

弥陀成仏のこのかたは いまに十劫をへたまえり

法身の光輪きわもなく 世の冥冥を照らすなり

暗黒の世界を盲目のまま迷い迷っている私を、如来さまのは十劫の遠いむかしから 混身の光りとなつて照らし続けていくだつさつたのだ。

眼を病むわが幼子をおんぶしながら、つぶやくよろに子守歌の様に歌つてくれた母の歌でもあるこのご和讃を、こんどわたしは久々にこの身に感じさせていただきました。平気で過ごしているわたしを振り動かし目覚めさす如来様の並々でないご縁であったと思ひました。

十一月二十九日、出石の中川俊隆（としたか）・郁（かおる）ご夫妻の第二子中川 仁（じん）ちゃんが初参式にお参りにきました。おじいちゃんは本陣の中川 信様です。
「信」とい「仁」とい、東洋古來の倫理の中核思想を名に負うこの家の繁栄を想わずにはおれません。

十一月二十九日、出石の中川俊隆（としたか）・郁（かおる）ご夫妻の第二子中川 仁（じん）ちゃんが初参式にお参りにきました。おじいちゃんは本陣の中川 信様です。
「信」とい「仁」とい、東洋古來の倫理の中核思想を名に負うこの家の繁栄を想わずにはおれません。



年末餅つき
音って参加
してみませんか
12月27日午後2時より
お鏡餅や除夜会雑煮餅
も掲きます

除夜会

勝林寺名曲「じよやの籠」
11時より

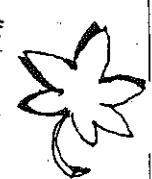
お雑煮の接待もあります。



【歌い込み】
世にかかる
聖のさとしたかくして 父俊隆（としたか）
仁（じん） それ忠恕
世のなかかわるとも 中川
このおしえは
どんなに時代が移ろうとも不変の人の道。
この道を生きてくれるようにと祈る親心を
貴く想いました。

十一月のこよみ	十一月
一日 正法寺報恩講 DS	二日 京都上西組追悼法要（六角会館）正法寺總講 DS
三日 谷原富雄氏宅法事・合同役員会合同役員会（きのさき）予防注射 DS	四日 唐川報恩講 DS
五日 太田・東里報恩講 DS	六日 区長会
七日 奥小谷報恩講 検診日	八日 横山弘三氏宅法事 玉日会定例法座
九日 出合報恩講	十日 神子上恵龍勸学十三回忌
十一日 保谷・日殿報恩講	十二日 布教使育成研修会
十二日 市場報恩講 DS	十三日 上小田報恩講
十四日 上小田報恩講 托鉢	十五日 小田報恩講
十五日 山田弘之宅法事	十六日 野尻・矢根報恩講
十六日 永井かめの氏宅法事	十七日 丸中・片間報恩講
十七日 暮坂報恩講 DS	十八日 教区布教団役員会
十八日 野尻・矢根報恩講	十九日 百合・桐野・寺坂・日野辺・鉢山
十九日 豊岡報恩講 DS	二十日 二十三日
二十日 口小谷報恩講 DS	二十六日 二十七日 お鏡餅つき
二十一日 丸中・片間報恩講 DS	二十八日 二十九日 三十一日 除夜会（じよやえ）
二十二日 教区布教団役員会	元旦 修正会（しゅしょうえ）

ことばのひびき



毎月二十六日の「みのりを聞く会」という集まりは、とても気楽な集まりです。おつとめのあとのご法話も、私たちは生活の身近なところでお念仏を聞くという調子のもので、それで法話の後の「話し合い」も年寄り若い者がや面白おかしく進みます。メンバーはいつも七八人と言うところですが。

先月は、どこからそんな話しに成ったのか、まずそうそう、今の男たちの生活文化はパソコンとカラオケということで、あの男たちの歌うカラオケ演歌というものがほどひどい女性差別はないということでした。おともどもは女性を指して「おまえ」「きさま」でよぶ。あの演歌の中に、世のおどどもの差別体質が培われていることを明らかにしなければいけないのだ。とまあこんな話題でありました。

「とんでもない話」。
「お前」「貴様」は差別語どころか尊敬語。賤称語どころか敬称語なんだ。ことばの意味を考えてみよ」

議論の末到達した結論。

「ことば」というものは勿論「意味」も大事だけれど、どんな時代のどんな人にどう響くかということがもっと大切なことではないのか。意味よりもことばの働き影響力をキッチリ見定めなければ尊敬語がそのまま差別語になってしまふ場合もある。たしかに昔、「御前に候」という具合に尊敬語としてつかわれていた「おまえ」ということばも、今の時代いまの社会いまの女性には差別語と響いている。「したたらず」とか「てみじかに」など、意味としてはそうでなくとも、そこそこがその時代その人にどう響くかをいつもしゃつた。

南無阿弥陀仏って声のほとけさまと聞きました。意味の仮想ではなくて、いつの時代に

も、十方衆生、どんなわたしのような者にも、響くんだ大事にしてるんだよ」と呼んでおつてくださる、わたしにとつて最高最大の尊敬語なのかもとわたし勝手にいただかせていただきました。

南無阿弥陀仏って、いつも「あなたをいつもいちばん大事にしてるんだよ」と呼んでおつてくださる、わたしにとつて最高最大の尊敬語なのかもとわたし勝手にいただかせていただきました。

話し合いのあと、その日は特別に「ちかいのうた」というおつとめさんの「われ佛の道さとりえ」。その名は四方にきこえなんなどということばに関係したまとめてご法話がありました。

龜の赤ちゃん

あるお寺の幼稚園で
お話をしました

南の広い広い海の波間に、お米の粒より粟のつぶよりもっともっと小さな海亀の赤ちゃんが見えました。だからおひさまの昇る東に向かって泳いで行つてよいのか、太陽の沈む西に向かって泳いで行つていいのか、暖かな南へ泳いで行けば何かつかまりする物に出会えるのか、それともちよつと寒い北の方にいければ陸地に泳ぎ着けるのか皆目わかりません。

「ことば」の赤ちゃんは、かわいそうにお目々この亀の赤ちゃんは、かわいそうにお目々が見えません。だからおひさまの昇る東に向かって泳いで行つてよいのか、太陽の沈む西に向かって泳いで行つていいのか、暖かな南へ泳いで行けば何かつかまりする物に出会えるのか、それともちよつと寒い北の方にいければ陆地に泳ぎ着けるのか皆目わかりません。

近畿仏教婦人大会で

斎藤 昌子

十一月九日、滋賀県立体育馆（大津市）で開かれたこの大会に出席させていただき、実り多い一日を過ごさせていただきました。約四千人の集会で、まず、おごそかな音楽法要ではじまり、大会会長挨拶、総裁さまのおことばに続いて、故大谷嬉子名誉総裁追悼の集いました。

大会テーマ：自然（じねん）「見えぬ」

着きその木の穴をくぐり抜けたら、人間に生きるものもあるんだよ。見えぬものもあるんだよ」（金子みすずさんの世界）

童話作家矢崎節夫さんのお話

大漁（たいりょう）

朝焼小焼（あさやけ）

大漁だ

大羽鯛（おほいわ）

浜は祭りの

ようだけど

海のなかでは

何万の

鰐（アシカ）のとむらい

するだろう

目に見えるものだけではなく、目には見えないものをしつかりと見つめる、みすすの優しい思いに感動いたしました。

目に見える「ものの世界」で、あれこれ比較したり互いに競り合ったり差別しあつていれる私達の世界を、大きく超えて阿弥陀様の智恵のひかりのなかで、だれもだれもがおなじ輝くいのちで出会えたら、どんなにしあわせだろうなあとと思いました。

金子みすずさんは、そんな白然（じねん）の世界において、その世界のしあわせを、私達に指示示して下さったんだと知られました。

私がからだをゆすっても

きれいな音は出ないけど、

あの鳴る鈴は私のように

飛べる小鳥は私のように、

地面を速くは走れない。



「みんなちがう」まさに、「みんなない」みんなちがって、みんないい。

世界にすめたらどんなにしあわせだろうと考え、ああそれがお念仏の世界なんだと知らされました。